

予算要求資料

令和2年度9月補正予算

支出科目 款：農林水産費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 里山林整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 恵みの森づくり推進課 恵みの森づくり係

電話番号：058-272-1111 (内 3029)

E-mail：c11513@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 89,000 千円 (現計予算額：200,000 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
現計予算額	200,000	0	0	0	0	0	200,000	0	0
補正要求額	89,000	0	0	0	0	0	89,000	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・平成24年度から、林業活動では採算が合わないため放置されてきた里山林や奥山林などの整備・活用・保全する目的で清流の国ぎふ森林・環境税を導入した。
- ・野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全や、生物多様性の保全を図るため、市町村、森林組合等が実施する管理・整備に要する経費を助成。

(2) 事業内容

【補助対象事業及び補助上限単価 (補助率 10/10)】

○里山林整備タイプ

- ①侵入竹の除去 460 千円/ha
- ②森林病虫害の防除 60 千円/m³
- ③広葉樹等の植栽 750 千円/ha
- ④修景等の環境保全 240 千円/ha
- ⑤不用木の除去 220 千円/ha
- ⑥附帯施設整備 300 千円/ha
- ⑦施設整備 必要経費積上げ額以内の額
- ⑧既存施設の改修 5,000 千円/箇所

○生活保全林整備タイプ

- ⑨バッファゾーン (緩衝帯) の整備 700 千円/ha

⑩危険木の除去 必要経費積上げ額以内の額

⑪放置竹林の整備 1,360 千円/ha

【補助対象事業及び補助上限単価（補助率 2/3）】

○森林地域外危険木除去タイプ

⑫森林地域外危険木の除去 1,000 千円/箇所

【補助対象者】

市町村、森林組合等（森林地域外危険木の除去は市町村のみ）

（３）県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ森林・環境基金対象事業

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	89,000	里山林整備事業補助金
合計	89,000	

決定額の考え方

４ 参考事項

（１）各種計画での位置づけ

・「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ－３ 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1)地域の魅力の創造・伝承・発信

②美しく豊かな環境の保全・継承

(3)農林畜水産業の活性化

③「100年先の森林づくり」の推進

・第3期岐阜県森林づくり基本計画

第7章 1 健全で豊かな森林づくりの推進

(1)災害に強い森林づくりの推進（「環境保全林」対策の推進）

(3)森林空間の利用の促進（里山林の保全・利用の促進）

（２）国・他県の状況

・平成15年度に高知県で導入されて以来、現在37府県で導入している。

・令和元年度より、国の森林環境譲与税が導入された。

（３）後年度の財政負担

課税期間である令和3年度まで税収に応じ事業を実施。

（４）事業主体及びその妥当性

市町村、森林組合等が実施する里山林に対する管理・整備に要する経費を支援する制度。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

補助事業名	里山林整備事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村、森林組合、生産森林組合、森林組合連合会、森林整備法人、林業事業体、特定非営利活動法人など（理由）広域的に森林整備等を実施するため
補助事業の概要	（目的）森林所有者等による持続的な森林経営が困難な森林を整備することで、野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全や生物多様性の保全を図る。 （内容）市町村森林整備計画で快適環境形成機能増進森林又は保健・文化機能維持増進森林に区分された里山林、生活保全林等の整備事業を支援。
補助率・補助単価等	定額・定率 ・その他（例：人件費相当額） （内容）補助対象経費の10/10以内の額、森林地域外危険木除去タイプは3分の2以内の額 （理由）里山林の公益的機能の維持増進を図るためには不可欠な事業であるため
補助効果	事業実施箇所周辺の住民等にアンケート調査を行った結果、高い満足度が得られている。
終期の設定	終期 令和3年度 （理由）清流の国ぎふ森林・環境基金事業のため

（事業目標）

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>平成29年度から令和3年度までに3,250haの里山林の整備を支援する。</p>
--

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H28年度末)	目標 (R2年度末)	目標 (R3年度末)
里山林整備面積（指標①）	0ha	1,594.02ha	3,250ha
危険木の除去実施箇所数（指標②）	0箇所	330箇所	200箇所

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度 (要求)	
補助金交付実績	221,630千円	248,831千円	257,223千円	289,000千円	
指標①目標	650ha	650ha	650ha	650ha	
指標①実績	(実績値) 317.91ha	(実績値) 320.14ha	(実績値) 305.97ha	(推計値) 650ha	
指標①達成率	48.9%	49.3%	47.1%	100%	

指標②目標	40箇所	40箇所	40箇所	40箇所	
指標②実績	(実績値) 92箇所	(実績値) 116箇所	(実績値) 82箇所	(推計値) 40箇所	
指標②達成率	230%	290%	205%	100%	

(前年度の成果)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等） 令和元年度里山林整備事業の実績 実施市町村数：29 整備面積：305.97ha 施設改修：11箇所 施設整備：2箇所 森林地域外危険木：2箇所
--

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 市町村等から予算額を超える要望が寄せられていることから、事業費の確保が必要である。

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い
(評価) ○ 里山林の快適環境形成機能や保健文化機能等の公益的機能の維持増進を図るためには不可欠な事業である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない
(評価) ○ 地域住民の要望に対応した森林整備を進めることができ、概ね期待どおりの効果が得られている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある
(評価) ○ 事業費が高くなる傾向にある危険木の除去について、令和元年度事業より、事業実施要領において危険木や保全対象等の定義付けを行った。

(事業の見直し検討)

令和3年度の事業終期まで現行制度で事業を実施する。

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

[継続]・削減・統合・廃止 (理由) 清流の国ぎふ森林・環境基金事業の継続を前提に事業
--